

**【会社の対処すべき課題と打ち手】**

2021シーズンのチーム成績がJ3リーグ最下位であったことを踏まえ、喫緊の課題は、チームの立直し、強化になります。進行期の2022シーズンは、J3リーグ所属が18チームであるため、JFL（日本フットボールリーグ）への降格はありませんが、来季（2023シーズン）、チーム数が19以上になる場合、JFLとの入替えが始まります。カマタマーレ讃岐として、降格争いに決して加わることがないように対処してまいります。

チームの立直し強化の方法として、チーム人件費を増やし有力選手を補強するやり方もあり得ますが、クラブの根本的な課題を解決しないまま場当たりの選手補強をしても毎年、降格争いに悩まされるおそれがあります。今クラブがすべきことは、稼ぐ力、戦う力を含めたクラブの総合力を高めることです。進行期（2023年1月期）及び来期（2024年1月期）以降、以下の課題に取り組みます。

初めに稼ぐ力に関して、2020年1月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響は、進行期（2023年1月期）でも継続しています。当期（2022年1月期）の営業損失は▲35百万円となり、前期の▲70百万円から半減しましたが、進行期ではさらなる増収と費用コントロールにより、収支均衡をめざします。

具体的には、第一に、コロナ禍における事業運営について、選手、スタッフ全員が毎日の生活で適切な感染予防対策を行い、ホームゲームの試合興行を支障なく行い、安全安心で快適な観戦環境づくりに取り組みます。

第二に、事業収入に関して、1)スポンサー企業に価値を感じていただける特典、アクティベーションの提供によるスポンサー収入の増加、2)自治体、スポンサー企業、他のスポーツ団体などとの連携を通じてホームゲームイベントを充実させ来場者を増やすことによる入場料収入の増加、3)社外のODM(Original Design manufacturing) チームを活用した商品企画、開発の強化による物販収入の増加、4)スクール会場の増設（志度校）及びトップチーム選手の指導参加によるスクールの魅力アップを通じたアカデミー関連収入の増加に取り組みます。

第三に、事業経費に関して、1)強化担当への予算制度の研修実施によるチーム等関連費の適切なコントロール、2)試合数が増える試合運営経費について外部委託先の効率的な活用による費用増の抑制、3)フロントスタッフの待遇改善に取り組む一方で、外部人材の有効活用による生産性向上に取り組みます。以上の取組みにより、進行期（2023年1月期）の収支均衡をめざします。

戦う力に関しては、チーム強化の基盤づくりに取り組みます。その一つが宝山湖公園でのクラブハウス建設です。クラブハウスは、J1のクラブライセンスの施設基準に準拠したものにします。これにより毎日の練習を決まった時間、決まった場所のルーティンにできるほか、練習直後のアイスバス（氷風呂）や筋力アップのためのトレーニングルームも備え、フィジカルコンディションの向上に役立てます。

進行期（2023年1月期）では、このクラブハウス建設に向けて、現在、具体的な資金計画と投資計画の策定に取り組んでおります。クラブハウスの建設資金自体は、三豊市を受け皿とする「企業版ふるさと納税制度」を活用することにしており、また建設費の支出時期は、来期（2024年1月期）になりますが、その前提として会社の財務体質を強化すべく、本進行期（2023年1月期）での募集株式発行による増資を検討しております。

これらのハード面の充実に加えて、宝山湖ではソフト面の充実にも取り組みます。一つは栄養面の充実

です。練習直後の補食は強度の高い練習で傷ついた筋肉の修復に必要不可欠です。クラブハウス完成時には練習直後の補食を提供できる仕組みを検討しております。

そして何よりソフト面の充実の肝になるのが人材の成長です。稼ぐ力、戦う力の両面を担うのは、フロントスタッフであり、トップチーム、アカデミーの選手、コーチです。これまで十分でなかった指導育成を一人ひとりに寄り添った形でできるよう体制を整えてまいります。

クラブは、2022年1月の新体制発表会において、2030ビジョンを発表しました。2030ビジョンでは、2030年にJ1で戦い、香川県民にとって唯一無二の存在になることをめざしています。その出発点としてクラブのサッカーフィロソフィーを定めました。「ひたむきに、クレバーに、一つになって戦う」。これをクラブとしてやり続けることによって、稼ぐ力、戦う力を積み上げ、クラブの総合力を高めてまいります。

これらの課題に対処するため全社一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以上